

文科大臣に抗議文提出 名古屋市中学校での前川氏授業に対する 不当な介入に抗議する

名古屋市立中学校で行われた総合の時間での前川氏の講演について、文科省が当該中学校と名古屋市教育委員会に対して不当な介入を行いました。これは、国による教育統制につながる重大問題であり、尾北教労は、以下のような抗議文を林文科大臣に送りました。

文部科学省による不当な教育介入に断固抗議するとともに、

過ちを認め謝罪すること、真相を明らかにすることを求めます！

私たちは、文部科学省が、2月に名古屋市立中学校で文部科学省前事務次官の前川喜平氏が講演したことについて、名古屋市教育委員会を通じ、名古屋市立中学校長に対し、講演内容等の確認や録音データの提出を執拗に求め、不当な圧力をかけたことに対し断固抗議するものです。

今回の文科省の行為は「調査」などではなく、明らかに不当な教育への介入であり、学校と地方教育委員会に対する恫喝ともとれるものです。

教育基本法には、戦前の国家主義的な教育への反省から「教育は、不当な支配に服することなく」行われるものであることが明記されています。最高裁も「教育内容に対する・・・国家的介入はできるだけ抑制的であること」（旭川学テ判決）としています。しかし、林文部科学大臣は、「法令にのっとった行為。一般的にあること」などと開き直り、問題を正当化しようとしています。授業の内容など教育課程の編成権は各学校にあり、本来文科省は、不当な介入から学校を守るべき立場です。その文科省が各学校の授業の内容に介入し圧力をかけるなど、憲法と教育基本法が禁じている国家権力による教育内容への不当な支配そのものであり、許されるものではありません。このような文科省による学校や地方教育委員会への介入がまかり通るなら、子どもたちの実態をふまえた創意ある多様で豊かな教育活動が阻害されることとなり、国による教育統制につながります。

また、文科省のメールでは、「出会い系バーの店を利用」「こうした背景がある同氏」などと前川氏への人格攻撃ともいえる内容も含めて、「どのような判断で依頼されたのか」などと回答を求めるなど、安倍政権に批判的な人物の言動をチェックし、圧力をかけるものと言えます。今回の文科省の行為の背景には、自民党の国会議員からの働きかけがあったことが明らかとなっています。

私たちは、文科省に対し、過ちを認め謝罪し、政治家からの働きかけやその影響なども含め真相を明らかにするとともに、地方教育委員会や学校への教育施策の押しつけや不当な介入を行わないことを強く求めます。

2018年3月27日

文部科学大臣 林 芳正 殿

団体名：尾北教職員労働組合